整理番号　16-04

平成２８年度　プロジェクト研究所研究実績報告書

平成 29 年 6 月 9 日
代表者　上垣内　伸子

研究所の名称	幼児教育研究所
設置年限	平成２５年４月１日　～　平成３０年３月３１日

１．研究の取組状況

保育者養成カリキュラムの開発研究および授業研究として、平成 28 年度は、平成 25 年度の幼児教育研究所設置から継続して取り組んでいるテーマを中心に、保育・教育実習をはじめとした学生自身の実践活動を学習の柱とした、以下に示す 1 年から 4 年に至る 4 つの専門科目について、その実効性を検証し、学生自身の自己成長感を保証する養成カリキュラムについて検討した。

①児童学演習：実習体験を通しての子ども理解・保育理解を図る初年次教育科目

前期の学外実習については、現在の実習体制に至るまでの経緯、現在の実習事前・事後指導と実習を通した学びの変容について検討した。後期の観察実習については、学生によるプレゼンテーションを経て、他の授業担当教員と共に学生のメタコメントから、仲間との話し合いを通したアクティブラーニングによる学びの効果を分析した。

②幼児教育基礎実習：保育実践記録を活用したグループ・カンファレンスによる反省的保育者養成を目指す基礎的実習科目

実習後の記録と話合いに基づく省察の営みを重視し、学生が省察の意義を理解し、保育実践の中に省察を位置づける姿勢を持つことをめざすこの実習が、3・4 年次の個と集団の両方を視野に入れた援助が求められる、保育者の免許・資格取得のための実習に対してどのような教育的効果をもたらしているのかについての検討を試みた。

③障碍児保育：特別な配慮の必要な子どもの保育に際して、子ども理解・自己理解を深める授業

障碍のある子ども一人一人がかけがえのない存在であることを学生に伝えるために、障碍のある子どもや大人が主人公になっている絵本を 15 回授業の内 10 回程度取り上げ、その教材としての有効性を検討した。

④教職実践演習：保育者を目指す者としての自己課題の明確化と課題改善に取り組む教職必修科目

保育者養成最終段階である 4 年次後期の「教職実践演習」の実施前の授業計画策定及び 3 年間の取組を整理し、浮かび上がってきた課題を整理した。さらに、授業内での学生自身の自己評価を分析し、本授業の効果と課題の析出を行った。

２．研究の成果・概要および公表実績・予定（年月日、開催場所、方法等）

①②③④の授業研究の成果について、日本保育学会第 69 回大会（5 月 7-8 日、東京学芸大学）、全国保育士養成協議会第 55 回研究大会（8 月 26 日、いわて県民情報交流センター）および日本保育者養成学会第 1 回大会（平成 29 年 3 月 5 日、白百合女子大学）にてポスター発表を行った。

【研究の成果】

①「児童学演習」前期学外実習；本学科では以前から「地域で学ぶ」教育体制を展開しており、保育や子どもの育ちを学ぶ機会を得ていることが確認できた。学生自身も、地域の保育者や子どもとのかかわりを通して、保育の面白さや子どもの魅力についてそれぞれが考察を深めていることが確認できた。後期観察実習；学生はプレゼンテーションを通して、他者の視点に気づき自分の視点を広げることとなり、個別事象に対する理解を深めるだけでなく、全体と部分との関係を俯瞰的に捉え、構造化する力を獲得する可能性が示唆された。

②「幼児教育基礎実習・演習」; 実習後の記録と話し合いに基づく省察からは、自らの子ども理解に対し謙虚になるとともに、視点の多様性の獲得がなされると考えた。今後は話し合いによって学生がどのように自らの保育の省察を深め、次の実習につなげているかについて、その体験を明示化していく必要がある。
③「障碍児保育」; 毎回の感想文やアンケート調査の結果から、筆者の意図が伝わっていることが分かった。
④「教職実践演習」;「不足している知識や技能」についての自己認識の程度が、到達度に大きな影響を及ぼしていることから、学生の自己認識を深める機会の提供の在り方を探ること、各教員が、学生の学びのつながりについての理解を深めることの必要性が示唆された。加えて、本科目における学びを学生が振り返り、記述していた内容から、本科目は大半の学生から自己課題に影響を与える学びがあったと評価されていることが確認できた。特に自己課題に関わるグループ学習は積極的に参加していたと評価する学生は高い割合となっており、より主体的に学でいたことがうかがえた。今後、本科目の改善にむけて講義形態の授業への意欲的な取組が促進される内容と授業展開、グループ学習の効果的な授業回数や内容の検討がある。さらに授業後に残された学生の自己課題の分析とそれらに関わる学習のあり方も検討する必要があることが示唆された。

【研究成果の公表】

１．日本保育学会第 69 回大会（5 月 7-8 日、東京学芸大学）
・保育者養成初期段階における保育体験を基盤とした授業展開(6)（大宮明子・上垣内伸子・横井紘子・西脇二葉・井上知香）

２．全国保育士養成協議会第 55 回研究大会（8 月 26 日、いわて県民情報交流センター）
・地域の保育施設との協働による保育者養成(4)－保育者養成１年目の前期に行う体験学習とその事前事後指導の在り方－（鈴木晴子・長田瑞恵・上垣内伸子・大宮明子・横井紘子・西脇二葉）
・保育者養成初期段階における保育体験を基盤とした授業展開（７）（上垣内伸子・横井紘子・山田陽子・大宮明子・西脇二葉）
・授業「障碍児保育」で障碍のある「子ども」理解を援けるテキストとしての絵本活用の試み２（山田陽子）
・保育者養成最終段階としての教職実践演習の授業展開(1)（大宮明子・上垣内伸子・潮谷恵美・宮野周）

３．日本保育者養成学会第 1 回大会（平成 29 年 3 月 5 日、白百合女子大学）
・保育者養成最終段階における教職実践演習の成果と課題(1)」（潮谷恵美・大宮明子）

本報告書作成担当者　所属・氏名	連絡先内線番号
幼児教育学科　　上垣内伸子・西脇二葉	342・339

平成 29 年 11 月 24 日

平成 28 年度(2016 年)　研究概要

研究所・部門	幼児教育研究所
研究課題名	
研究代表者	上垣内　伸子
研究期間	平成 25 年 4 月 1 日　～　平成 30 年 3 月 31 日
共同研究者	潮谷恵美,大宮明子,金勝裕子,横井紘子,鈴木晴子,長田瑞恵,山田陽子 川喜田昌代,向井美穂,権明愛,加藤則子,渡邊孝枝,西脇二葉

1.研究成果取組状況

（1）国内外の学会発表

状況	発表者，発表課題，学会誌名，発表年月日，発表場所	招待講演
発表済	1.大宮明子・上垣内伸子・横井紘子・西脇二葉・井上知香,「保育者養成初期段階における保育体験を基盤とした授業展開(6)」2016 年，5 月 7-8 日，日本保育学会第 69 回大会，於）東京学芸大学. 2.鈴木晴子・長田瑞恵・上垣内伸子・大宮明子・横井紘子・西脇二葉,「地域の保育施設との協働による保育者養成(4)－保育者養成１年目の前期に行う体験学習とその事前事後指導の在り方」，2016 年 8 月 26 日，全国保育士養成協議会第 55 回研究大会，いわて県民情報交流センター. 3.鈴木晴子・長田瑞恵・上垣内伸子・大宮明子・横井紘子・西脇二葉,「保育者養成初期段階における保育体験を基盤とした授業展開（７）」 4.　山田陽子,「授業『障碍児保育』で障碍のある「子ども」理解を援けるテキストとしての絵本活用の試み 2」2016 年 8 月 26 日，全国保育士養成協議会第 55 回研究大会，いわて県民情報交流センター. 5.　大宮明子・上垣内伸子・潮谷恵美・宮野周,「保育者養成最終段階としての教職実践演習の授業展開(1)」日本保育者養成学会第 1 回大会，2017 年 3 月 5 日，於）白百合女子大学. 6.潮谷恵美・大宮明子「保育者養成最終段階における教職実践演習の成果と課題(1)」日本保育者養成学会第 1 回大会，2017 年 3 月 5 日，於）白百合女子大学.	

発表済	7. 上垣内伸子．第 1 回保育者養成教育学会大会準備委員会企画シンポジウム「今，保育者養成教育とは」演題「日本の保育者養成教育のこれからを考える」　日本保育者養成学会第 1 回大会，2017 年 3 月 5 日，於）白百合女子大学.	○
発表予定		

（2）雑誌論文（学内紀要含む）

状況	発表者，発表課題，学会誌名，発表年月日，発表場所	査読有無
投稿済		
投稿中 投稿予定		

（3）図書等の出版

状況	発表者，発表課題，学会誌名，発表年月日，発表場所
出版済	
出版予定	

（4）シンポジウム・講演会等の開催

状況	主催者名・協賛社名等，講演（発表タイトル），実施年月日，実施場所
開催済	
開催予定	

(5)本研究に関連して本学経費以外に支援を得た補助金など

年度	機関・財団名，事業名，課題名